

しずおか 県民児協だより



第
45
号

題字／静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書

2023.3.1発行



もくじ

- P2 会長就任・退任の挨拶
- P3 全国民生委員児童委員大会(愛知大会)発表レポート
- P4 連載「withコロナ時代の民生委員活動」
- P6 特集 民生委員の心構えとリーダーの役割**
- P8 インフォメーション／編集後記

タイトル：桜とコイとカモ

やすだ ゆきひろ
作者：安田 幸大 湖西市

カラフルな切り絵を得意とし、日々創作に取り組んでいます。最近は水彩画にも興味を持ち、この作品も大好きな桜を水彩で描きました。毎年楽しみのお花見の場所で撮影した、写真の気に入った部分を組み合わせ、大胆さと細やかさが感じられる作品になりました。

会長就任のご挨拶



静岡県民生委員児童委員協議会
会長
岩倉陸弘（藤枝市）

この度、静岡県民生委員児童委員協議会会長を務めさせて頂くことになりました。よろしく願い申し上げます。

は地域との関わりが深く、地域と住民のつながりや、人と人をつなぐ役割を担っています。

私たちを取り巻く福祉の問題は時代の流れとともに飛躍的に充実してきました。しかしながら社会の急激な変化とともに新たな課題も生じてきています。

近年、地域住民のつながりが希薄化しており、地域共生社会の構築が喫緊の課題となっています。私たち民生委員・児童委員の活動

全国民生委員児童委員連合会が令和4年3月に策定した「地域共生社会の実現に向けた民生委員・児童委員、民児協としての行動方針」に沿い、「①気づく」「②つなぎ、見守る」「③つなぎ先を増やす」「④地域に活動を伝える」「⑤住民相互に支えあう地域をつくる」「⑥災害に備える」の6つを軸に、活動していき



たいと考えております。各市町や地区民児協が活動しやすい環境の中で成果を上げるためには、関係する機関等との連携・情報の共有が不可欠です。各地区の意見や要望が関係機関に伝わり、それを解決するための方策を協働して取り組む仕組みづくりができれば良いと考えております。皆様のご支援ご協力の程、よろしく願い申し上げます。

会長退任のご挨拶



静岡県民生委員児童委員協議会
前会長
杉本 正（牧之原市）

民生委員としてヨチヨチ歩きからはじまった18年間、多くの方々にご指導をいただきと共に、時には友としてお付き合いをして頂きました事は私にとって大きな宝となりました。誠にありがとうございました。

そして今一つの宝は私が思うに今日、個が尊重される世間一般の考え方として、他人さまの事情にはかわらない事が個人的に安全で豊かに暮らすスタイルのようです。しかし、この様な時代の感覚下であるか

らこそ、いろいろな状況により支援先にたどり着けない人々を私達には安全に導いてあげる灯台守としての役割が有ろうかと思いません。

その「思いやる気持ち」と「信頼に託される」関係は日頃の和みある民児協活動の中で育まれて来るものであると活動をとおして学ぶ事が出来ました。皆様にはこれからも新時代に向け、ご活躍をしいただきます様お願い申し上げます。

全国民生委員児童委員大会（愛知大会）発表レポート



障がい者が生活しやすい地域づくり

伊豆の国市民生委員児童委員協議会
会長 室伏 美登里



1 福祉社会の推進

▶田方福祉村

高齢者や障がい者が地域で安心して暮らし、自立と共生ができる社会を目指して整備されたのが“田方福祉村”。高齢者や障がい者のための7つの福祉施設が、自然豊かな環境の中で運営されている。

▶私たちの取り組み内容

「ノーマライゼーション」の理念を念頭に。障がいのある方が地域の中で安心して生活し社会参加できるよう、伊豆長岡地区民児協がチームとして関わり、支えていく。「できる人が、できることを」自然体に。

2 障がいがある方との関わり

①“障がい者就労支援施設もくせい苑”との関わり

▶もくせい苑とは？

社会福祉法人春風会を母体とする就労継続支援B型事業所。一般就労が難しい障がい者に対し職場を設け、社会適応を図りながら自立に必要な職業的作業訓練を行い自立を支援している。

▶民生委員としての関わり

コロナ禍のため屋外での作業補助が主。アルミ缶リサイクルのための圧縮作業や花壇の草取り、植え替え作業は通所者と共同作業し、マスク着用でも弾む会話に「やさしい気持ち」をたくさんいただきながら心温まる時間を共有している。

②“ひまわり号”との関わり

▶ひまわり号とは？

障がいがある人たちが自由に列車に乗って旅ができないという現状の中、「列車に乗ってみたい」「旅をしたい」という切実な願いを実現させようと1982年11月、初となる「ひまわり号」が東京都上野駅～栃木県日光駅を走行。今では各地で活動を展開。



▶民生委員としての関わり

伊豆半島に住む約300名が参加し“伊豆するがひまわり号”が走行。主役である障がい者1名に対し、ボランティア2名が寄り添い楽しい時間を共有。車両ごとに障がい者が工夫を凝らした楽器演奏や名物の食べ物販売などのイベ



ントを開催。ひまわり号の活動当初から車いす介助や観光の付き添いなど協力を続けている。

③“手をつなぐ育成会”との関わり

▶伊豆の国市手をつなぐ育成会とは？

1952年、知的障がい児を持つ親が我が子の幸せを願い、教育・福祉・就労などの施策の整備、充実を求め、前身となる精神薄弱児育成会(別名 手をつなぐ親の会)が設立された。3町合併に伴い、2005年に伊豆の国市手をつなぐ育成会が発足。その後、親亡き後の生活を支えるため田方福祉村の中にケアホームが開設された。

▶民生委員としての関わり

賛助会員、そして障がい者の良き理解者として、会が主催する各事業(ボーリング大会、いちご狩り等)に参加。最近は障がい者の高齢化もあり、従来の「本人と家族」の入会から「本人」だけが入会するケースが増加。介助の手となるボランティア不足が深刻な状況となり、人材育成の必要性が高まっている。

④社会福祉大会、障がい者支援講座から学ぶ

講演会や疑似体験を通じ、学びを深め正しく理解することで障がい者に寄り添うことや気づきに繋がる。

▶市社協主催の講演会や支援講座に参加

発達障がいの疑似体験を通じ、感覚の違いや不自由さを学び、「生活のしにくさ」への気づきに繋がった。また社会との繋がり方や安心して呼吸ができるような「居場所」の重要性を改めて学んだ。

3 まとめ・今後の課題

今も、そして親亡き後も民生委員児童委員として学びや理解を深め気持ちの通い合った支援を！

障がい者家族

まるで暗い森の中をあまりなして歩いているような心細さ…
親亡き後の不安…



世間からの差別！偏見！

「手をつなぐ育成会」の賛助会員として寄り添い支援を！



平等な社会を！



作画：もくせい苑利用者



コロナ禍における感染に 留意した民生委員による活動 焼津市民生委員児童委員協議会

焼津市ではコロナ禍であっても、地域でのつながりを絶つてはいかないという思いから、感染予防対策（マスク・消毒液等必需品は全員に支給）を徹底し、活動を継続しています。

毎年行う「歳末たすけあい募金」では、支援を必要とする方への援助と市内の地域福祉活動を積極的に展開するために対策を施し、前年度に協力していただいた方々に事前に電話連絡を行い、玄関先で短時間での特別募金活動を実施しました。

また、新たな年を迎える時期に、経済的に支援を必要とする一人暮らし、高齢者、障害のある人などが地域で安心して暮らすことが出来るように助成する社協の在宅助成の申請から援護金の受け渡しまでを感染予防対策を徹底して実施しました。

その他、今年度改選時期を迎える前、10月の福祉月間に民生委員活動

を事前に知っていただくために「民生委員児童委員あれこれ」と題して市民児協会長による講演会を事前予約制・対面方式で開催し、多くの新任委員の方に理解を深めていただきました。

これからも、自分たちでできることを考え、地域とともに活動していきます。



大石前会長による講演（焼津市）

「学びと交流」の復活 沼津市民生委員児童委員協議会

ウィズコロナと呼ばれる中、感染者数は高水準を続けています。沼津市民児協は「できない」では

なく「どうしたらできるか」を基本姿勢として行事・研修に取組んできました。民生委員・児童委員は「気づき」と「コミュニケーション」が大切と考えており、各種研修の企画・開催が委員の意識レベルの向上と委員交流を促すものと捉えています。そして、全体研修を八月二十九日約二百名の委員が参加し開催しました。静岡福祉文化実践研究所の平田厚所長を迎え「近所福祉」をテーマに、支援活動のポイントは、お互いを認め合う・対等である・見返りを求めない・継続的である・無理がないことが大事と学びました。その他、部会研修・地区交流研修会も感染状況を勘案し感染対策を取りながら各地区にて順次再開されました。九月・十月は三年振りに「一人暮らし高齢者等実態調査」が実施され、苦労しながらも従来の活動に戻ってきました。一斉改選により知識・経験の浅い委員が過半数を占めています。新しい一年は、活動の基盤となる知識習得のため、研修の形を模索しながら開催して行く方針です。

コロナ禍の民児協活動

長泉町民生委員児童委員協議会



平田氏を招いての全体研修（沼津市）

新型コロナウイルスが確認されて以来、民児協の活動は大きな制限を受けてきました。しかし、完璧ではないにしろどうすれば活動を続けられるか、試行錯誤の3年間でした。その活動の主なものを紹介します。

まず、定例会議等の民児協内部対応です。公共の会議室が密を避けるため定員を半減し、90名が一堂に会しての会議ができなくなっていました。当初は2部会ずつ時間をずらして2回行うことに

しましたが、役員が2回出席同じ報告を行うことになるので負担が大きく長続きしないと判断しました。そこで、会議室を2つ確保し、Zoomで接続して同時に行う方式としました。現在もこの方式で行っています。

次に、訪問活動への対応です。ひとり暮らし高齢者などへの訪問活動が制限され、高齢者の孤立が心配な状況となっていました。そこで、社協と協力し高齢者への「応援メッセージ集」を作成して高齢者に届ける活動を始めました。令和2年7月号から始まり現在も継続して月に1回届けています。詳細は、「県民児協だより第41号」をご覧ください。



全体研修の様子（長泉町）

森町民生委員・児童委員協議会では、協議会46名全委員での活動と、委員それぞれが障害児者福祉部会・高齢者福祉部会・児童福祉部会の3つの部会いずれかに所属し部会の活動を行っています。協議会全体としての活動は、主に年8回の定例会や視察研修、独居高齢者訪問事業（配食サービス）、社会福祉協議会が実施するふれあいまつりへの協力、地区ごとに分かれて社会福祉施設への奉仕作業を実施しています。この3年間はコロナ禍となり、例年実施していたふれあいまつりや社会福祉施設への奉仕作業、視



小学生からの応援メッセージ（長泉町）

新たな研修の第一歩

森町民生委員・児童委員協議会

察研修等活動は制限され、実施出来なかったり規模を縮小して一部実施となったものもありました。また、定例会も3密を避けるため広い会場へと変更したり、感染拡大防止対策のため席配置の変更、全員での唱和や合唱を黙読にしたり、書面での開催にするなどとして行ってきました。

一方部会活動は、一つの部会が15・16名と少数なため、コロナ禍であっても部長が中心となって出来るようなことを模索しながら活動をしてきました。高齢者サロンをはじめ、社会福祉施設や教育施設、企業への訪問や見学を実施したり、病院の医師や町職員によるミニ講演会を実施しました。

視察研修では、施設内の見学は出来なかったところもありましたが、施設職員の方が出来る範囲で内容を検討して案内をしてくださいました。施設や環境、またそれに携わる人たちは、色々な事をきちんと受け止めるなど大変な苦勞をしていると思いました。

私たち委員の訪問活動においては、委員それぞれが感染防止対策として、手指消毒や体調管理等心がけつつ、電話での対応や玄関を開けての声かけ、メモ用紙を使つての伝達等工夫を凝らしながら活動してきました。

令和4年12月から新しい委員での活動が始まりましたが、まだまだコロナは終息する気配がありません。コロナ禍前のような活動はまだ難しいかもしれませんが、今期はコロナ禍であっても、再任委員が中心となって新任委員と共に出来ること出来ることを探し、社会福祉の立場から社会奉仕、住民尊重、相談・援助活動を地域の人たちと共に進めていきたいと思っています。



視察研修の様子（森町）



部会活動の様子（森町）

特集

一斉改選を迎えて先輩委員から新任委員へエール！

民生委員の心構えとリーダーの役割

令和4年12月に一斉改選が行われ、各市町民児協では新たなリーダーや新任委員を迎えていることでしょう。今回の特集では、牧之原市榛原地区民生委員児童委員協議会1月定例会を訪問。一斉改選後の最初の定例会の様子に加え、民生委員の心構えとメンバーを支えるリーダーの役割について、期を重ねている先輩委員の皆さんに話をうかがいました。



**一斉改選後初の定例会
新会長の挨拶や研修会を実施**

定例会には各地区から新任委員26名をはじめ、47名の民生委員・児童委員が参加しました。今期より会長を務める横田喜久男さんは、新任委員に向けて「一人で抱え込まないように、多職種と連携して取り組んでほしい」とエールを送りました。

研修会では「活動記録の記入方法」についてわかりやすく解説。「その日のうちに記録しよう」「プライバシー性の高い情報は記入しないこと」など注意点について言及しました。

本格始動に向けて、今後は新任委員研修や専門部会研修、オリープ（地域包括支援センター）相談会などが実施されます。

専門部会では、地域福祉部会・児童福祉部会・高齢者福祉部会・障害児者福祉部会に分かれてグループトークを実施。新しいリーダーの挨拶やメンバー一人ひとりによる自己紹介が行われました。初めての民生委員で不安なことや、活動での悩みや苦勞などを情報共有。先輩委員のアドバイスにうなづくシーンが多く見受けられました。

**専門部会に分かれて
不安や悩みを情報共有**



新リーダーに聞く！ 民生委員の心構えと リーダーの役割とは？

閉会后、期を重ねているベテラン役員さんに残っていただき、リーダーとして大切にしていることや、民生委員の心構えをテーマに座談会を実施しました。ポイントをいくつか紹介します。

取材に協力してくださったのは、写真奥左から、八木美恵子さん（2.5期目）、坂口孝夫さん（2期目）、櫻井厚志さん（2期目）、横田喜久男さん（2期目）、福代清さん（2期目）、田村京子（3期目）さんです。



▼みんなの話を聞く

リーダーとしてあれこれ指示するのではなく、メンバーの話を「聞く」姿勢を大切にしています。会話を通して相手の本音を引き出し、信頼関係を築くこと。自分から声をかけるなどして、話しかけやすい雰囲気をつくるように心がけています。

▼活動しやすい環境づくり

委員さんがやりがいをもって活動できる環境を整えることに尽力しています。リーダーとして引っ張っていくというよりも、委員さんの背中を押して自主性を引き出すことが、育成につながると思っています。

▼相談ことは迅速かつ確実に対応

持ちかけられた相談事には、すぐに対応して結果を報告しています。困ったときに頼りにしてもらえようという実績を重ね、信頼関係を築くことが大切です。

▼自分の存在を知ってもらう

担当地区の皆さんに顔を覚えてもらうために、できるだけ町内会などの集まりに顔を出すように努めます。高齢者のお宅は一軒一軒訪問しました。そうすることで、自身に責任を課すことにもつながります。

▼一人で抱え込まない

解決が難しい事例については一人で抱え込まず、市役所や社協、地域包括支援センターなど、各分野の専門家と連携すること。架け橋になることが民生委員の仕事です。いつでも話し合えるような仕組みづくりをすることが重要です。



Ⓐ 民生委員は、社会のさまざまな機関と関わることもあるため、役職が上がっても現場を大事にしつつ、支え合いが大事であることを意識しています。また、委員の皆さまには、地域を知ること、“民生委員”を知ってもらうこと、を意識して活動して欲しいです。ボランティアだとか、名誉職だとか、そういった意識は重点とせず、「相談しようかな」と思ったとき、一番に頭に浮かぶ人として活動できたら嬉しいです。



委員の資質の変化を感じています。逆に、始めた頃から変わらない意識は、現場を大事にして、地域に関わることです。
◎ 牧之原市民児協の長所を教えてください。
Ⓐ 相良、榛原の2地区に分かれています。場合によっては、相良と榛原で民児協としての在り方に変化があり、共通認識を芽生えさせ、ひとつにまとめることが難しいと感じることがあります。しかし、違う意見を聞くことができるというのは、逆に言えばメリットと感じています。各々がそれぞれの専門部会を経験できるよう割り振りを考えています。
◎ 今後、民生委員児童委員は地域の中で、どのような存在でありたいですか？

◎ 民生委員は何期目ですか？

Ⓐ 8期目です。

◎ 新任委員へはどのようにフォローアップをしていますか？

Ⓐ 部会・支部会を中心に先輩委員が後輩委員をフォローし、連携を強化しています。行政の担当と協議しながら、研修会等を実施しています。

◎ 民生委員を始めたころと現在の心境の変化を教えてください。

Ⓐ 民生委員の委嘱を受けた頃は、まだ上下関係の強い縛りがあり、経験の浅い委員は発言できない雰囲気がありました。最近では、経験の浅い委員であっても、さまざまな発言があり、良くも悪くも民生

